

よみがえれ！
有明訴訟弁護団
(後藤富和)発行
092-512-1636
090-9602-0700

長崎の漁業者新たに提訴へ 諫早湾干拓開門

【佐賀2月18日】国営諫早湾干拓事業で、長崎県雲仙市の瑞穂漁協と国見漁協の漁業者が、国を相手に潮受け堤防排水水の開門を求める訴訟を起こすことが17日、分かった。諫早湾内の漁業者では既に小長井漁協の漁業者らが常時開門などを求める訴えを起こし、審理されている。地元漁業者の相次ぐ提訴は、「開門絶対反対」を主張する長崎県の姿勢に影響を与えそうだ。

佐賀県の漁業者らの潮受け堤防排水水開門を求める訴訟の弁護団が同日、明らかにした。瑞穂、国見の漁業者はそれぞれ、3月中にも長崎地裁に提訴する方針で準備を進めている。

瑞穂漁協は今月初めの全員協議会で、開門調査反対から賛成に方針転換した。国見、小長井の両漁協は開門反対の立場を続けている。訴訟には瑞穂漁協は組織ではなく漁業者が個人個人の判断で参加する方針で、原告は10人以上になるとみられる。国見は数人になる見通し。

原告に加わる予定の瑞穂の漁業者は「13年間辛抱してきたがもう限界。この道しかない」「一刻も早く元の海に戻してほしい」と提訴へ踏み切る思いを話す。弁護団の馬奈木昭雄団長は「長崎県内にも多くの反対の声があることを示すことに

有明海の栄養塩不足 ノリ色落ち、海況回復せず

【毎日2月24日】有明海のノリ養殖の栄養塩不足による色落ち被害問題で、県有明海漁連(西田晴征会長)は23日、理事会を開き、海況が回復しなければ、ノリ網の撤去量を増やすことを26日に開く組合長会議に提案することを決めた。

漁連は潮の流れを良くし、色落ちや病害の拡大を防ぐため、2月上旬までに約2割のノリ網を撤去。さらに撤去することになれば、異例の事態となりそう。

理事会では、県水産海洋技術センター有明海研究所が22日の海況を説明し、栄養塩を奪う植物プランクトンの発生が衰えず、栄養塩不足の状況が続いていると説明。

これを受け、3月4日までさらに網の撤去を進めた上で、漁場の回復を待ち、同10日に新たにノリ網を張り込むことを提案することを決めた。

漁連、網撤去量増提案へ福岡

なる。一部が開門に反対しているのが実態」と語った。

諫早湾干拓開門へ 政治決断を

漁業者ら国会内で集会



諫早干拓開門を訴える佐賀県のノリ養殖業者(農水省前)

【佐賀2月18日】国営諫早湾干拓事業の潮受け堤防排水水の開門を求める訴訟の原告・弁護団は17日、東京の参院議員会館で集会を開いた。有明海の漁業者は、参加した与野党の国会議員10人に、5月にも開門を実施するよう政治決断を求めた。

集会には開門調査反対から賛成に転じた瑞穂漁協(諫早市)からも2人が参加。室田和昭副組合長(66)は「自分たちだけがいい目にあおうというものではない。農業者や諫早市民の生活を守りながら環境に優しい水門の開け方を望んでいる」と訴え。太良町の漁業者大鋸武浩さん(40)は「ノリ養殖の深刻な色落ち被害を説明し、3期連続の被害で、この

ままでは休業・廃業だけでなく自殺者も相次ぐ」と悲痛な声を上げた。民主党有明海再生を考える議員の会副会長の松野信夫参院議員は「農相に決断をしてもらおうための環境づくりに頑張っている。そう遠からず決断してもらえる日が近づいている期待を持っている」と述べ、政務三役への働きかけを強める考えを示した。



集会で訴える鳩山元法相

開門を命じた佐賀地裁判決を国が控訴する際の法相だった鳩山邦夫衆院議員(自民)も出席。「農水省は開門調査のためのアセスをやると言ってずっと引き延ばし、やらないで済まそうという魂胆が見え見え」と批判した。

原告・弁護団はその後、農水省担当者と交渉。担当者は「有明海再生へいろんな対策事業をやってきたが十分に機能していない。長崎県とも連携していい方法がないか検討したい」と述べ、漁業者らが「なぜ開門だけやらないのか」と詰め寄ったが、平行線に終わった。